

渋谷PARCO・パルコミュージアムの最後を飾る展覧会はパルコ縁のアーティスト12組が夢の競演

「SHIBUYA, Last Dance_」

「渋谷PARCO。新しい未来へ向けた「最後的一幕」が上がる。」

伊藤桂司／井上嗣也／小沢健二／佐藤可士和／しりあがり寿／寺山修司／東京スカパライズオーケストラ／日比野克彦／森山大道／HOMME PLISSÉ ISSEY MIYAKE／TOMATO／Ground Y



2016. 7. 29 FRI - 8. 7 SUN
 PARCO MUSEUM
 渋谷PARCO PART1-3F
 10:00-21:00 入場は開演の30分前まで / 入場料 無料

伊藤桂司
 井上嗣也
 小沢健二
 オムプリッセ イッセイ ミヤケ
 グラウンドワイ
 佐藤可士和
 しりあがり寿
 寺山修司
 東京スカパライズオーケストラ
 トマト
 日比野克彦
 森山大道

KEIJI ITO
 TSUGUYA INOUE
 KENJI OZAWA
 HOMME PLISSÉ ISSEY MIYAKE
 GROUND Y [YOHJI YAMAMOTO INC.]
 KASHIWA SATO
 SHIRIAGARI KOTOBUKI
 SHUJI TERAYAMA
 TOKYO SKA PARADISE ORCHESTRA
 TOMATO
 KATSUHIKO HIBINO
 DAIDO MORIYAMA

SHIBUYA, Last Dance_

主催：PARCO 後援：Japan Graphic Designers Association Inc. / Tokyo Art Directors Club / Tokyo Type Directors Club
 協力：TOKYO FM / 株式会社森山 三浦有希子（森山大道） / タカヤマケイ / HAction / 東スター / パリス・カバレー / 大塚国際 / シンク / カス
 アーティスト / 井上嗣也 / 小沢健二 / しりあがり / 佐藤可士和 / 寺山修司 / 東京スカパライズ / TOMATO / Sincerely
 お問い合わせ：03-3477-5873（パルコミュージアム） 住所：東京都渋谷区神泉町15-1 www.parco-art.com

PARCO

Photo by Daido Moriyama ©Daido Moriyama Photo Foundation

渋谷PARCOは、渋谷宇田川町地区再開発計画に伴い、2016年8月7日に一時休業をすることとなりました。パルコミュージアムでは残り3本の展覧会を「SHIBUYA PARCO MUSEUM FINAL EXHIBITION」と銘打ち開催してきました。この度、2016年7月29日（金）から8月7日（日）で開催いたします『SHIBUYA, Last Dance_』と題したグループ展で最後を飾り、一旦その役割を終えます。

渋谷PARCOは、1973年のオープン以来、若者文化のシンボルとして渋谷の街と共に成長し、ファッション・アート・デザイン・音楽・映画・出版、そして演劇まで様々な文化を発信してきました。時代時代にPARCOと深く関わった12組のアーティスト、ミュージシャン、ファッションブランドが競演する最後の展覧会『SHIBUYA, Last Dance_』。少しの間のさよならと、新しい未来へのメッセージを込めて、夢のオムニバス・アルバムのような、パルコミュージアム「最後的一幕」が上がります。

開催前日となります7月28日（木）18時より、メディア向け内覧会を開催いたしますので、ぜひ貴社媒体でのご取材、ご掲載をお願い申し上げます。

【本展に関するお問い合わせ】
 株式会社PARCO メディアコミュニケーション部 Tel：03-3477-5713 Fax：03-5489-7481
 〒150-0045 東京都渋谷区神泉町8-16 渋谷ファーストプレイス
 担当：高橋 賢太郎 taka-ken@parco.jp
 株式会社パウコムコミュニケーションズ TEL:03-3668-6700/FAX:03-3668-6660
 〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町6-3
 担当：梶原 毅 t-kajihara@bau-com.co.jp

■開催概要

SHIBUYA PARCO MUSEUM FINAL EXHIBITION 2016『SHIBUYA, Last Dance_』

会期：2016年7月29日(金)～8月7日(日)

10:00～21:00 (入場は閉場の30分前まで)

会場：パルコミュージアム (渋谷パルコ PART1・3F)、エントランスホール (渋谷パルコ PART1・1F)

入場：無料

主催：PARCO

後援：Japan Graphic Designers Association Inc./Tokyo Art Directors Club

Tokyo Type Directors Club

協力：TOKYO FM/岐阜県美術館/三沢市寺山修司記念館/テラヤマ・ワールド/H'action

ポスター ハリス・カンパニー/大洋印刷/シネフォーカス

アートディレクション：井上嗣也 デザイン：稲垣純 写真：森山大道

企画制作：PARCO/Bau-Com./Smilevehicle

URL：www.parco-art.com

(展示内容)

渋谷パルコ・パルコミュージアムの「最後の一幕」として、『Last,Dance_』(ラストダンス)をテーマに、12組の参加アーティスト達が展覧会に向けて制作した新作や、貴重な旧作からテーマに沿った作品展示を行います。

絵画、グラフィック、ポスター、立体、写真、映像、音楽、衣装、エッセイなど、渋谷パルコならではの豪華アーティスト達による幅広い展示内容は、夢の競演と呼ぶにふさわしい内容となります。

また、会期中には出品アーティストはじめ渋谷パルコに関わりのあるアーティスト達による、トークショーやアートインスタレーション、ライブパフォーマンスなども開催します。

(参加アーティスト) ※日英50音順敬称略

伊藤桂司/井上嗣也/小沢健二/佐藤可士和/しりあがり寿/寺山修司/東京スカパラダイスオーケストラ/

日比野克彦/森山大道/HOMME PLISSÉ ISSEY MIYAKE/TOMATO/

Ground Y [YOHJI YAMAMOTO INC.]

■展覧会記念ポスター

『SHIBUYA, Last Dance_』のオフィシャルポスターは、「写真家・森山大道」と「アートディレクター・井上嗣也」、初となる豪華コラボレーションポスターです。

森山大道が今回の展覧会に出品する「渋谷の街」の写真作品に、現在、渋谷パルコで展開中の広告キャンペーン「Last Dance_」を手掛けた井上嗣也が展覧会ポスターとしてアートディレクションを行いました。

展覧会の開催を記念して、同ポスターの豪華版を展覧会会場限定にて販売いたします。

<展覧会記念限定商品>

商品：SHIBUYA PARCO MUSEUM FINAL EXHIBITION 2016

「SHIBUYA, Last Dance_」limited poster <Special Edition>

サイズ：B1(W:728 H:1,030)

価格：未定

写真：森山大道

アートディレクション：井上嗣也

デザイン：稲垣純

印刷：大洋印刷



※グレー部分は銀箔の予定です ※写真はイメージです

Photo by Daido Moriyama ©Daido Moriyama Photo Foundation

■参加アーティスト・プロフィール

1. 伊藤桂司（グラフィックアーティスト）

1958年、東京生まれ。グラフィックワーク、アートディレクション、映像を中心に活動。2001年東京ADC賞受賞。テイ・トウワ、木村カエラ、スチャダラパー、キリンジ、PES、高野寛、ohana、オレンジペコー、ポニー・ピンク、愛知万博EXPO2005世界公式ポスター、イギリスのクラヴェンデール、NHKの番組タイトル&セットデザイン、SoftBankキャンペーン、KEIJI ITO×graniph Collaboration他多数のビジュアルを手掛ける。個展多数。国内外のグループショーにも多数参加。2013年の「シブバル展。」(パルコミュージアム)では、田名網敬一氏とのコラボレーション作品を発表。京都造形芸術大学教授。UFG代表。



2. 井上嗣也（アートディレクター、グラフィック・デザイナー）

アートディレクター、グラフィック・デザイナー
1947年生れ。1978年ビーンズ設立。アートディレクター、グラフィック・デザイナー。広告、音楽、出版、TVなどのアートディレクションの仕事。写真と音楽とタイポグラフィの斬新なデザインワークでジャンルを横断した仕事を続けている。日本プロ野球機構シンボルマーク「NPB」制作。東京ADCグランプリ。東京TDCグランプリ。
井上嗣也作品集『INOUE TSUGUYA GRAPHIC WORKS 1981-2007』、『INOUE TSUGUYA GRAPHICS TALKING THE DRAGON』（リトルモア刊）。東京ADC会員、東京TDC会員、JAGDA会員。



3. 小沢健二（シンガーソングライター、作家）

1968年生まれ。
最新作に2016年ライブツアー「魔法的 Gターベas Dラムs キーeyズ」、2015年読物「赤い山から銀貨が出てくる」（文芸誌「MONKEY」所収）など。



4. 佐藤可士和（クリエイティブディレクター、アートディレクター）

1965年、東京生まれ。多摩美術大学グラフィックデザイン科卒。
クリエイティブスタジオ「サムライ」代表。グローバルブランド戦略のトータルプロデューサーとして、ユニクロ、楽天グループ、今治タオル、三井物産、ヤンマーなどのプロジェクトで高い評価を得る。また有田焼400周年記念事業「ARITA400 Project」における作品発表、2016年秋スタートの八代目中村芝翫襲名披露公演のクリエイティブワークなど日本文化、伝統工芸、技術に革新を吹き込み、世界に向けて新たな可能性を提示することにも注力。文化庁文化交流使。慶応義塾大学特別招聘教授、多摩美術大学客員教授。著書に『佐藤可士和の超整理術』など。



5. しりあがり寿（漫画家）

1958年、静岡県生まれ。1981年、多摩美術大学グラフィックデザイン専攻卒業後、キリンビール株式会社に入社し、パッケージデザイン、広告宣伝等を担当。1985年単行本『エレキな春』で漫画家としてデビュー。パロディーを中心にした新しいタイプのギャグマンガ家として注目を浴びる。1994年独立後は、新聞の風刺4コママンガから長編ストーリーマンガ、アンダーグラウンドマンガなど様々なジャンルで独自の活動を続ける一方、近年では映像、アートなどの多方面に創作の幅を広げている。手塚治虫文化賞 マンガ優秀賞（2001年）をはじめ数々の受賞歴があり、2014年には、平成26年春の叙勲 紫綬褒章を受章した。



■参加アーティスト・プロフィール

6. 寺山修司（詩人・歌人・劇作家・演出家）

1935年、青森県生まれ。18歳で「チェホフ祭」短歌研究新人賞特選受賞。60年、処女戯曲『血は立ったまま眠っている』が劇団四季で上演。映画『乾いた湖』で初のシナリオを手がける。67年、横尾忠則らと演劇実験室「天井桟敷」を結成。詩人、エッセイスト、小説家、評論家、作詞家、映画監督、劇作家。主な公演に『青森県のせむし男』『毛皮のマリー』（67）『奴婢訓』『身毒丸』（78）『レミング』（79）。映画監督作品に『田園に死す』（74）『草迷宮』（78）『さらば箱舟』（84）。著作に歌集『血と麦』（62）『ひとりぼっちのあなたに』（65）、『書を捨てよ、町へ出よう』（67）。1983年、47歳で急逝。1997年、少年時代を過ごした青森県三沢市に寺山修司記念館開館。



©Arita Taiji terayama world

7. 東京スカパラダイスオーケストラ（ミュージシャン）

1980年代後半、ストリート、クラブを中心にライブを行い、圧倒的なパフォーマンスはライブを重ねるごとに動員を増やし、1989年には『TOKYO SKA PARADISE ORCHESTRA』をインディーズでリリース。以降、SKAをベースに、ジャンルを超えた“トーキョー・スカ”サウンドを確立。SKAのオリジネーター「SKATALITES」から全米ツアーへの同行を誘われ、“DUBの巨人”DENNIS BOVELLから「スカパラの為ならいつでもスケジュールを空ける」とまで言わしめた。オーセンティックなSKAからジャズ、ロックまでを提示できるパフォーマンスで、世界中のSKAバンドの中でも特筆すべき存在と言える。



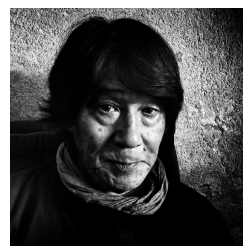
8. 日比野克彦（アーティスト）

1958年、岐阜市生まれ。東京藝術大学大学院修了。1982年 日本グラフィック展大賞受賞、1995年 ヴェネチアビエンナーレ出品。近年の主なアートプロジェクトに『明後日新聞社文化事業部／明後日朝顔』『海底探査船美術館 一昨日丸・ソコソコ想像所』『アジア代表日本』。2012年、『ぎふ清流国体・ぎふ清流大会』、2014-15年、日本財団アール・ブリュット美術館 合同企画展『TURN/陸から海へ(ひとがはじめからもっている力)』、2015年、みんなの森ぎふメディアコスモス開館記念事業『みんなのアート』、岐阜県美術館 アートまるケツ『花は色の棲家』を監修。平成27年度芸術選奨文部科学大臣賞（芸術振興部門）受賞。



9. 森山大道（写真家）

1938年、大阪府生まれ。デザイナーから転身し、岩宮武二、細江英公の助手を経て、フリーの写真家に。1967年、日本写真批評家協会新人賞を受賞。近年では、サンフランシスコ近代美術館（1999年・メトロポリタン美術館、ジャパンサイエティ巡回）、国立国際美術館（2011年）、テートモダンで行われたウィリアム・クラインとの合同展（2012～13年）他、大規模な展覧会を開催。2012年には、国際写真センター Infinity Award 功労賞を受賞するなど世界的に高い評価を受けている。写真集は『新宿』（2002年、2003年 第44回毎日芸術賞受賞）、『モノクローム』『カラー』（2012年）、『犬と網タイツ』（2015年）等多数。



©Alfredo Jaar

■参加アーティスト・プロフィール

10. TOMATO (デザイン集団)

1991年にロンドンで発足。アーティスト、ミュージシャン、デザイナーとクリエイティブ思考から構成されるデザイン集団。デジタル世紀の先導者としてグラフィック、バーチャルメディアデザインの最先端を走り続ける。メンバーは世界中に分散し、メディアデザイン、映像、ブランディング&CI、ファッションデザイン、近代彫刻&都市建築設計、実験的コンピューターグラフィック、ファインアートなどの分野で活躍。タイポグラファー/アーティストとして知られるJohn Warwicker、ファッションブランド「Work Not Work」を立ち上げたSimon Taylorらが在籍。音楽の分野では、世界中に影響のあるエレクトリック・デュオ「Underworld」が在籍することでも知られる。



11. HOMME PLISSÉ ISSEY MIYAKE (ファッションブランド)

「HOMME PLISSÉ ISSEY MIYAKE(オム プリッセ イッセイ ミヤケ)」は、現代を生きる男性のための新しい日常着を提案するブランド。基本の素材はシワにならず、乾燥性に優れたポリエステルを採用。軽くて動きやすい着心地、メンテナンスが簡単で携帯しやすいことが大きな特徴。

HOMME
PLISSÉ
ISSEY MIYAKE

12. Ground Y [YOHIJI YAMAMOTO INC.] (ファッションブランド)

ヨウジヤマモト社のコンセプトショップとして、渋谷パルコにオープンした「グラウンド ワイ」。同名のオリジナルブランドも展開し、ヨウジヤマモト社のフィルターを通したファッションの様々な可能性を提案。「グラウンド ワイ」のコンセプトに共感するアーティストやクリエイターとの交流から、様々なコラボレーションも行う。

Ground Y

■イベント開催概要 『SHIBUYA, Last Dance_』

【日比野克彦×しりあがり寿】 SPECIAL TALK SHOW

日時：7.29 FRI 19:00~20:00
会場：パルコミュージアム／渋谷パルコ・PART1・3F
入場：無料
出演：日比野克彦（ブラジルからスカイプによる中継）、しりあがり寿（パルコミュージアム）
内容：展覧会初日、オリンピック開催直前のブラジルに滞在中の日比野克彦と、しりあがり寿がスカイプトークショーを開催。アートから遊びまで自由に楽しく語り合います。



【LOVE FOR NIPPON】 STAGE LIVE PERFORMANCE

日時：8.4 THU 16:00~
会場：公園通り広場／渋谷パルコ・PART1・1F
入場：無料
出演：CandleJUNE & SURPRISE GUEST
内容：2011年9月、パルコミュージアムにて東日本復興支援に想いを寄せたアート展を開催した「LOVE FOR NIPPON」がチャリティライブを開催します。今、再び、渋谷から熊本・東日本へ想いを繋ぎます。会場では、熊本の美味しいスイカジュースやからいもアイスの販売も行います。



■ イベント開催概要 『SHIBUYA, Last Dance_』

【伊藤桂司×河村康輔】 ART INSTALLATION

日時 : 8.5 FRI 18:00 START
 会場 : 公園通り広場／渋谷パルコ・PART1・1F
 入場 : 無料
 出演 : 伊藤桂司、河村康輔
 内容 : アートディレクター 伊藤桂司と、コラージュ・アーティスト 河村康輔が共演。
 二人の世界観が融合し、ひとつのコラージュ作品を作りあげるライブアートパフォーマンスをお届けします。ゲストDJも登場予定！



【OBANDOS | オバンドス】 SPECIAL LIVE

日時 : 8.6 SAT 18:00 START
 会場 : 公園通り広場／渋谷パルコ・PART1・1F
 入場 : 無料
 出演 : OBANDOS
 メンバー : 安齋肇(イラストレーター、ソラミスト)、朝倉世界一(漫画家)、
 白根ゆたんぼ(イラストレーター)、しりあがり寿(漫画家)、
 高橋キンタロー(イラストレーター)、薙野たかひろ(イラストレーター)、
 なんさん(漫画家)、パラダイス山元(マン盆栽園芸家)、
 ミック・イタヤ(ビジュアルアーティスト)
 内容 : 「楽器を自分たちで工作してバンドを作って、ライブをしよう」と結成されたOBANDOS(オバンドス)。
 渋谷パルコと深い関わりを持つアーティストたちがメンバーとして参加。2016年夏。メジャーフェスへの出演を全て断り、渋谷パルコの最後に華を添えるため、渋谷の街へ降臨しスペシャルライブを開催します。



【SURPRISE GUEST】 CLOSING SPECIAL EVENT

日時 : 8.7 日没頃
 会場 : 公園通り広場／渋谷パルコ・PART1・1F
 内容 : ファイナルの夜を締めくくるにふさわしいサプライズプレゼント！
 渋谷パルコ最終日に、伝説の一幕があがり未来へのメッセージを繋ぎます。

※上記イベントは、内容や時間、会場等が変更となる場合や、中止となる場合がございます。予めご了承下さい。

取材をご希望のメディア各社様は別途お問合せ下さい。

その他、イベントや販売商品などの詳細は決定次第、展覧会オフィシャルHP (www.parco-art.com) にて随時公開致します。

■ メディア向け内覧会のご案内

本展覧会開催前日となります7月28日(木) 18時より下記の通りメディア内覧会を開催いたしますので、ご多忙の折とは存じますが、是非貴社媒体においてご取材下さいませようお願い申し上げます。

ご希望のメディア各社様は、次ページの『申込書』をメール、またはFAXにてご提出下さい。

- 日時 : 2016年7月28日(木) 18時～19時
- 会場 : パルコミュージアム(渋谷パルコ PART1・3F) ※エントランスホール(渋谷パルコ PART1・1F) 展示も取材可
- 受付 : パルコミュージアム入口 メディア内覧会受付(渋谷パルコ PART1・3F)
- 住所 : 東京都渋谷区宇田川町15-1 03-3477-5873 (パルコミュージアム)

PARCO MUSEUM <メディア内覧会>のご案内
SHIBUYA PARCO MUSEUM FINAL EXHIBITION 2016
『SHIBUYA, Last Dance_』
メディア内覧会申込書

渋谷PARCOは、渋谷宇田川町地区再開発計画に伴い、2016年8月7日に一時休業をすることとなりました。PARCOミュージアムでは残り3本の展覧会を「SHIBUYA PARCO MUSEUM FINAL EXHIBITION」と銘打ち開催してきました。この度、2016年7月29日（金）から8月7日（日）で開催いたします『SHIBUYA, Last Dance_』と題したグループ展で最後を飾り、一旦その役割を終えます。

渋谷PARCOは、1973年のオープン以来、若者文化のシンボルとして渋谷の街と共に成長し、ファッション・アート・デザイン・音楽・映画・出版、そして演劇まで様々な文化を発信してきました。時代時代にPARCOと深く関わった12組のアーティスト、ミュージシャン、ファッションブランドが競演する最後の展覧会『SHIBUYA, Last Dance_』。少しの間のさよならと、新しい未来へのメッセージを込めて、夢のオムニバス・アルバムのような、PARCOミュージアム「最後の一幕」が上がります。

開催前日となります7月28日（木）18時より下記の通りメディア内覧会を開催いたしますので、ご多忙の折とは存じますが、是非貴社媒体においてご取材下さいますようお願い申し上げます。

謹白

<『SHIBUYA, Last Dance_』メディア内覧会>
日 時：2016年7月 28日（木）
受 付：PARCOミュージアム(渋谷PARCO PART1・3F)
電 話：03-3477-5873
時 間：18：00～19：00（最終受付18:45）

ご取材ご希望のメディア各社様は、以下ご記入の上、**7/25（月）まで**にメール（ご記入の上スキャンデータ添付）またはFAXにて下記担当宛にご返信下さい。

- ご担当者名： _____ / mail： _____ /
- ご参加人数： _____ 人
- 会社名： _____ / 電話番号： _____ /
- 媒体名・番組名（必ず明記下さい）： _____ /
- 撮影（マル印をご記載下さい）： _____ ・ _____ ・ _____ ・ 無し

<メディア内覧会> に関するお問い合わせ／ご返信先
株式会社PARCO メディアコミュニケーション部 高橋 taka-ken@parco.jp 青木 ao-ryo@parco.jp
TEL 03-3477-5781 / FAX 03-5489-7481（送付先）